

令和元年度 第1回（仮称）札幌市建設産業活性化プラン検討委員会 議事概要

1. 開催概要

日時：令和元年6月26日(水) 15:00～16:55

場所：札幌市役所 12階 4～5号会議室

次第：1 開会

2 挨拶 札幌市建設局長 小林 安樹

3 委員会概要の説明

4 委員長の選出

5 議事

「（仮称）札幌市建設産業活性化プランの取組について」

- ・札幌市における建設産業の役割
- ・札幌市の建設産業の現状と課題
- ・プランの基本理念、基本方針及び目標

6 閉会

出席者：

委員：別添「（仮称）札幌市建設産業活性化プラン検討委員会委員構成」のとおり

（欠席、代理なし）

札幌市：建設局、財政局、都市局

2. 議事概要

(1) 開会

(2) 挨拶（小林建設局長）

建設産業は地域の安全・安心を守るとともに都市基盤施設の整備、維持管理を通じて、経済と雇用を支える基幹産業としてまちづくりの重要な役割を担っていただいています。

このようにまちづくりのパートナーである建設産業が、将来にわたり、持続可能な態勢を確保していくためには現在建設業が抱えている人材不足など様々な課題を、業界だけの課題ではなく行政の課題でもあると認識しています。課題解決には官民連携して取り組むことが重要と考え、昨年度から今プランの策定に向けた検討を進めています。

このようなプランについてはすでに北海道庁で策定されていますが、政令市では初となります。今年度の検討を進める上では外部からの意見を聞くべきだと判断して本委員会の設置を決め、各委員の皆様にはそれぞれのお立場で忌憚のないご意見・ご助言をたくさん我々にいただきまして我々としてもご意見を反映しよりよいプランを策定したいと考えております。

本検討委員会については今年度4回を予定しています。今後ともよろしく申し上げます。

(3) 委員会概要の説明

- ・検討委員会委員の紹介
- ・配布資料の確認
- ・委員会設置要綱についての説明

- ・スケジュール案の説明

(4) 委員長の選出

- ・事務局より北海道大学の高野委員の推薦があり、拍手により承認。

(5) 議事

【説明事項】

- ・プランの目的・期間（令和2年度～6年度）・対象範囲（一連の建設産業）について
- ・札幌市における建設産業の役割（地域インフラの整備と維持、災害時の応急復旧対策、除排雪の対応、地域経済・地方創生への貢献）
- ・本市の建設業の活性化に向けた課題

【に対する確認事項、補足説明等】

<プランの対象について>

- ・雇用されている人数がデータで出ているが、それは全て正職員の方か。
- ・人数については、技術者と技能者では圧倒的に技能者が多く、建設産業全体の中で、だいたい7割が技能者で、技術者と事務員で3割。
- ・将来的に働く人を増やしたいということで考えていくわけで、正社員を増やしていくという方向性を重視していくのか。
- ・業種でかなり違う。土木は通年雇用でもかまわないが、建築を主にやっているところは職種が多く、職種ごとの技能者を雇っている会社がある。そこから派遣されて一つのものが出来上がっている。
- ・業者からの話では、社会保険の支払いを考慮して正社員にしたいが、「日給月給で春から秋まで働いて冬は休みたい」といった希望もあって難しいという。

<技能労働者の雇用について>

- ・昔でいう日雇いは、北海道で言えば4月雪解けから雪が降るまでで、冬は除雪の関係で雇うこともある。夏場に限定した土木作業員の確保は難しいため、日給月給ではあるけれど通年雇用という形が多くなっている。
- ・建設産業就業者が減っているというデータについて、震災の影響とか東京オリンピックの影響で道内の技術者、労働者が道外に行かれていると聞くと、その影響が無くなった場合、戻ってくることはないか、どの程度影響があるのか。
- ・札幌の中小の業者はあまりそういう感覚はないと思うが、専門業者は東京方面で仕事があるので横のつながりで行っていると聞く。終わったら多少帰ってくるだろうが居着く人もいると思われるので、影響は分からない。
- ・電気系の技能者は、そんなに東京に行っている感じはないが、感覚的に今はニセコとか周辺地域の影響の方が出ていると思う。

【説明事項】

- ・活性化プランの基本理念・基本方針

- ・活性化プランの基本目標と取組目標（想定される施策）

【説明事項、に対する意見等】

<週休2日>

- ・技能者の場合は、今まで週6日働いてある程度の給料を確保していたのが週5日になると、1.2倍もらわないと合わなくなるため、現実的には厳しい。ただ、週休2日をやらないと若い人が入らなくて、技術者以上に技能者は高齢化が進んでおり、必要性ははっきりしているが悩ましい。
- ・地方の業者との意見交換において、積雪寒冷地ということで夏に工事をどうしても進めたいため、夏場の週休2日は難しいという問題点を示された。河川・道路系の週休2日は工期全体で週休2日取ればよいこととしているが、期間別で見ると夏場は一生懸命やって後半にまとめて休暇を取るといった形にならざるを得ない部分がある。

<施工時期の平準化>

- ・工期について、年度の縛りを無くしてもいいのではないか。札幌市だけでもそうした見直しをできないか議論をしてもらえないか。
- ・冬期間は工事がなくなるので、除雪も含めて通年での平準化をできないか考えていただきたい。

<生産性向上>

- ・機械化、ICTにより生産性を高めることは必要で、一番手っ取り早い方法である。

<イメージアップ、PR>

- ・PRの問題として、建設業界は広報が不得手だということは問題視しており、広報のあり方の勉強会等も不定期だが開催している。札幌市と両輪で、各団体だけでは取り組めないような一般市民に向けた大規模なPRが出来るとよい。
- ・人材を確保・育成する前に建設業界を向いてもらうためのPRはもちろん必要だが、PR+他の企業より賃金では負けないというようなことがあれば採用状況も違ってくると思う。
- ・母親は子供の進路には強い影響を持つので、女性を対象として建設業のすばらしさをPRしていただきたいと思う。
- ・若い層の担い手確保には、小さな頃から親御さんへのアピールが大事だと感じている。小学生のお子さんを招いての見学会を建青会などでやっているものもあり、中学・高校でも積極的の見学会を設けてあげるなど、親御さんを巻き込むPR活動が大事だと考えている。
- ・小学校や中学校で建設業のPR、社会基盤の維持がいかに大事かということを教育の場面で若いうちから教えると、その子が親にも伝えて少しはPRが広がるのではないかと思う。
- ・若い人に振り向いてもらうためには、これまで改善できなかった部分も業界として取り組むことが必要。建設産業の役割や必要性を我々は分かっているが、報道のされ方について、社会的な役割を果たした場合でも業界紙にしか掲載されず、親もその役割ややりがいを理解できなくなっているためPRに取り組む必要がある。
- ・札幌市は20代から40代男性の市外への流出率が高いので、特に高専や大学を出た方の流出

を止めることを市全体として取り組んでいただきたい。もっと魅力ある街づくりに向けて、建設業のクリエイティブな魅力のPRをしていただきたいと思う。

- ・女性が活躍できる場所がどのくらいあるのか。女性に限らず、現場で楽しく、好きで仕事をしている方もたくさんいる。そういう方の声や、仕事の面白さ、仕事の内容などをもっと教えてもらうという形の情報発信を行っていく。また、そういう体験を聞ける場を提供するような取組をやってはどうかと思う。
- ・小学校中学校へのアプローチや高校生への印象を変えていくことはすごく大事であり、働く現場の方のドキュメンタリーという形で、インフラがどれだけ大事なのかを伝えていってはどうか。
- ・若者が何を目標やターゲットとして就職したいかを考えると、儲かっている業界や給料だったりする一方、憧れの美容師が事業展開をしていることも受け入れている。各企業はリスクの軽減・回避を考えながらマネジメントしていくことも重要で、成功モデルができると建設業界に入りたいと思えるので、そういう工夫も必要だと思う。
- ・建設業には、非常に活発に前向きに働いている女性が多いので、そういうことをもっと多くの方に知っていただけたら建設業に対する見方も変わるのではないかな。
- ・インフラというのは空気みたいにあって当然というように感じられているけれども、そのままでは維持できないということを伝えていかないと、更新に税金を使うことも含めて、理解が得られないことが出てくると思う。

<助成・支援>

- ・今は非正規雇用が多くて、引きこもりや無業という若者は使いにくいということがあるかもしれないが、マッチングや教育次第ではないか。コミュニケーションが苦手だが、教えられて任されればきちんとやれる若者も多く、そういう方の仕事の場として、人を育てる、若者を育てることの連携がとれないかと思っている。
- ・札幌市の助成制度は対象を現場に限定していて使いにくいいため、もう少し緩和してくれたら多くの方が活用できるようになる。

<入札契約制度>

- ・札幌市の入札契約制度ではくじ運で受注が決まるので、頑張っても成果として実らない可能性があり、くじ引き入札が多いという実態を改善する方向で検討してほしい。
- ・くじ引きが多いと、技術力のある企業が札幌市の入札から離れてしまうことにつながるため、技術力などの評価方法の工夫が必要であると思う。
- ・魅力というと就業者では収入、企業では利益になると思う。地元で根付いている企業が受注できるかが大事で、例えば、随意契約とか指名競争入札があってもいいのではないかと個人的には感じていて、議論の中でいいアイデアが出てくればと思っている。

<事業量の確保、長期的な見通しの提示>

- ・各企業や団体が、担い手確保の問題に対して設備投資などのそれぞれの取組を行い、提示された目標を実現するためには、アクションプラン 2015 のようなある程度中長期的な規模感を持った公共投資に対する計画、見通し等を掲げていただくことが必要。

- ・札幌市では、5年後10年後にどれだけの作業員、技術者、冬の除雪機械のオペレーター等が必要で、今後減っていったときにどのように対応するのか。また、業者数についても現在の数が必要なのか、もっと整理していく必要があるのか、大手の傘下に入った方がいいのか。大きな方針が見えてくると、対応する方法が見えてくるのではないか。
- ・建設業界にも少数だが自分でマーケット作っていく分野もあるが、全体では難しい。

<意識改革等>

- ・開発局のこれまでの取組の中で、会社の幹部と現場の末端、監督員と現場代理人などで意志疎通する必要があるという意見をいただいたため、工事等の最初の打ち合わせの時に働き方改革、金曜日に仕事を依頼しないと、そういう取り組みをしていくと宣言をして、意識改革を進めている。
- ・離職する理由は、現場が厳しい、労働時間が長いとかではなく、人間関係が多い。年輩と若手職員の考えと意見が食い違ったりして、労働時間の改善も週休2日も大事だと思うが、年輩の方たちの考えも変えていく必要があると考える。
- ・アンケートには女性の雇用に消極的な数字が出ており、難しい分野もあるかも知れないが、女性活躍も考えていく余地はあるのではないか。
- ・女性の活躍を推進するためには、資本金いくら以上、売り上げいくら以上の企業は必ず女性幹部1人とか、課長以上何人とかの数値目標を掲げるという取組も、1つのポジティブアクション。ポジションを与えられると、努力の結果いつの間にか能力がついてくる。

<プラン全体>

- ・5年間というプランは長すぎるのではないか。5年経つと世の中が変わっているので考え直した方がいいのではないか。
- ・北海道が昨年3月に策定した「北海道建設産業支援プラン2018」は地方部までの課題を含めた北海道全体のプランであり、市に限定した札幌市のプランと道のプランでは最終的な施策は違ってくると思う。ただ、今、建設産業が抱えている課題は北海道全体と概ね同様であり、課題解決に向けて市独自の取組目標を設定し、今後進めていくのがいいと思っている。
- ・取組目標について、数値目標もあるとより具体的に進むのではないかと思う。難しいと思うが、できる範疇でやった方がいいのではないか。
- ・札幌市の特徴や良さが出る、札幌市のプランだからこうだという独自性を出したらどうか。

(6) 閉会

- ・今後は、8月8日に第1回検討部会、8月下旬以降に第2回検討委員会を開催予定

以上